

第30号によせて

『外国語外国文化研究』が第30号を迎えました。1991年の創刊以来、1年も欠くことなく刊行を続けられましたこと、これまで執筆して下さったみなさま、また編集に携わった方々に、厚く御礼申し上げます。

国士舘大学では、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・ロシア語、そして日本語、これら8つの言語が、外国語科目として提供されています。2010年、第20号が発刊された当時、『外国語外国文化研究』には、まだこれら8つすべての言語・文化圏にまつわる研究成果が掲載されていたわけではありませんでした。しかし、その後の10年間にハングルや韓国語に関わる論文も投稿され、いまや『外国語外国文化研究』の総目次には、国士舘大学で開講されている8つ全ての言語、そしてその文化圏に関わる論文が並んでいます。1つの団体が刊行している1つの紀要で、これほど多くの地域、文化をカバーしているものは、あまり例を見ないのではないのでしょうか。

ただ、その範囲の広さは、同時に統一感のなさにもつながるものです。そんな中、それらすべての言語・文化、そして会員をつなぐテーマも、総目次には散見されます。「外国語教育」です。これまでの30年間、会員みなが等しく興味を抱く外国語教育に関する論文も多々掲載され、またシンポジウムが開催されたこともありました。

これからも、8つの言語・文化圏にまたがる多様性を持ち、また「外国語教育」という大きなテーマでつながり、号を重ねていくことを祈りつつ、30号巻頭の辞とさせていただきます。

外国語外国文化研究会会長 大淵知直